

「よりよい新県立図書館の実現を願う集い」へのメッセージ(事前に寄せられた文)

市立図書館の現場からしますと、私たちのバックに県立図書館がありますので、目の前のお客様に、「どんな本でも用意できます」と言えます。市民の満足度は図書館のサービスの満足度に左右されます。これは本だけでなく、質問への回答サービスでも同じです。自分の館にはなくても県立図書館を通して県内のすべての図書館から本が借りられます。また、質問回答サービスは、自分の館の資料では答えられない質問がかなりあります。こんな時、私たちは〇〇の資料に当たりましたが、回答できませんでしたと県立図書館に告げて、回答を依頼します。そして、それを、県立図書館からの回答として、そのまま市民に渡します。

以上のような県立図書館のバックヤードがあるので、現場の市町の図書館は毎日安心して市民にサービスができています。
牧之原市 教育委員 元図書館司書 吉住幸子

新県立図書館建設を切望しています。静岡県立図書館設立から100周年迎えると伺っています。県立図書館は静岡の文化発展に多大なる貢献をして来たと思っています。現県立図書館を中心に毎年秋に実施してきた図書館大会は35市町の図書館職員と連携し毎回1000名近い参加者を集め成功させてきました。私たち市民も参加を許され図書館の役割について多くのことを学ばせていただきました。

現県立図書館は年月が経過して建物に亀裂がある箇所も出てきたと聞いております。静岡県は特に東南海地震の起こる可能性も考えられます。東静岡駅近くの新県立図書館建設を切に願っています。

藤枝図書館友の会 南雲初義

次期学習指導要領に向けて、学校教育関係者である私たちはその方向について勉強し、自校ではこういう教育をしていきたい、自校の児童生徒たちと豊かな学びを共に展開させていきたいと描いているところです。

デジタル学習基盤社会の中で子供たちは自分の興味関心や問題意識に沿って、主体的に学びに向かっている、そのような授業を目指し「質の深い、深い学びを実現させたい」「多様な子どもたち一人一人に合った教材、人材等を用意したい」「地域を知り地域に学び地域を創造していく『地の教育』を展開させたい」と、次期学習指導要領の方向性、子供たちや地域の実態に照らして、教育課程を編成していこうとしています。

こういった教育を展開していくために、図書館は大変大事な存在です。子供たちの「好奇心」を「知的好奇心」に昇華させるためには、本が必須であると思うからです。身近な学校図書館は当然大事なものであることに間違いはないのですが、多種多様な大量の情報や教科横断的な視点からの様々な学習材、そして静岡県に關係する歴史・地誌・人物・民俗・文学等の資料を有する静岡県立中央図書館の存在は児童生徒の学びを支えるものであります。大事な学びのインフラを確保していただきたい、将来の静岡県、日本を担う子供たちのために豊かな学びを確保していただきたい、と願います。
浜松市 学校教育関係者

山梨県立図書館には、毎年、おはなし会に招かれて行ってます。甲府駅直結がありがたいです。最寄りの駅から徒歩圏内にあるのがいいです。静岡も、グランシップ付近に出来れば、嬉しいです。

富士市 お話ボランティア

北欧の中規模の分館を訪れたときのこと。裏口から外に出て驚いた。木馬が置いてある小さな裏庭は隣の幼稚園と共有している。「ポエム」という名のその幼稚園も見学させてもらったがハンディキャップをもつ園児と一緒に保育を受けていた。子どもたちは食事中だったが彼らが庭を横切り自分の家のように自由に図書館に出入りする姿を想像して微笑ましかった。

館長の話によると分館は小学校などの教育施設と隣接しているところが多いそうだ。ほかの館でも子どもたちが担任の先生に本を読んでもらっている場面や建物の入り口で生徒を迎えるために笑顔で待機しているライブラリアンの姿を見かけた。このように北欧では学校と図書館がしっかり連携しあって子どもたちの教育の場としてしっかり定着していた。羨ましい環境であった。さすが教育国だ。

「図書館は自治体の文化のバロメーター」と言われているそうだ。われらが静岡県も、子どもたちに良き教育文化の環境を整えてほしい。そういう意味でもこれからできる県立図書館に期待を寄せている。

静岡県 会社員

東部の図書館在職中は県立図書館に大変お世話になりました。特に①協力貸出②研修③協力車での運営相談④県内図書館職員の交流の際の橋渡し役などです。東部地区の元図書館員としては、県立図書館の協力があるからこそ、安心して日々の図書館サービスに従事することができていました。感謝の気持ちでいっぱいです。財政難の折、どこも図書館には逆風の嵐が吹き荒れているのは悲しいことです。新図書館は多少の規模縮小や遅れはやむを得ないかも知れませんが、静岡県に誕生した子どもたちの明るい未来の為にも、静岡県民として誇れる新県立図書館の実現を願っています。

東部地区の元図書館員

高校生のウェルビーイング(幸福)のために、図書館は不可欠な場所です。

学校図書館では、本を借りる・読むという役割だけでなく、静かに勉強ができる自習室としての役割、一人になれる場所あるいは同じ趣味を持つ人に会える場所、探究活動や調べ学習の拠点として使用したり、受験や就職試験に必要な情報を探したりなど、様々な場面で高校生活を支えています。

近年、10人に1人が通信制の高校に通っており、身近に学校図書館がない高校生がいます。また勤務校では、外国につながる生徒も増加しており、学校図書館のハード面ソフト面での支援の限界も感じています。

新しくできる県立図書館には、今まで以上の学校図書館支援サービスの充実を期待するとともに、すべての高校生にとってのサードプレイス(第3の居場所)になることを願っています。

静岡県 県立高校教員

駅直結の図書館は私達障害を持つ者にとってありがたい立地です。図書館ですから資料収集などが大切な機能と思いますが、見識を広げるイベントの開催、展示会などの生涯教育的イベントの開催を期待しますし参加しやすいことがとても魅力的です。子供から高齢者まで障害を持つ人も外国人もみんなが気持ちよく利用できる施設であってほしいです。

市町の図書館との役割分担は必要かとは思いますがあまり敷居をお高くしないでほしいと思います。敷居の低い県立図書館を目指していただきたいです。そして駅からの通路も直結できるように知恵を絞っていただければと思います。

静岡県鍼灸マッサージ研修施設指導員(全盲) 梅原慈香

子どもの徒歩圏内に区立図書館がある恵まれた場所に生まれ育って、その後縁あって、静岡市郊外に住みました。最寄り市立図書館までバスで40分かかる地域でした。近くに図書館がないことがこんなに困ることだと初めて気づきました。その地域では、およそ15年にわたる市民の取り組みが実を結んで図書館が出来ました。地域図書館が少ないという不遇の一方で、県立図書館が企画する講座や勉強会は非常に豊かでした。「北欧の図書館について」の吉田右子先生の講座が忘れられません。

また、特に「子ども図書研究室」の存在は、県内の児童サービスの質向上を牽引し、図書館サービスの胆といってもいい児童サービスの意味を広めたといえると思います。全国的にみても希有で優れた機関ではないでしょうか？ こうした体験を経て地元に戻った時、恵まれていたと思っていた我が地域(東京)は指定管理者制度を導入したこともあってか、目立つ成果や単純な数字だけで判断される少々寒々しい図書館サービスが行われている場所になっていました。

静岡市での経験は、私に「人間にとって図書館は大切な場所である」「図書館とは人である」ということを教えてくれました。どんなに地域館がたくさんあっても、どんなに立派な建物を建てても、人がその地域の人々の為に何が必要かを考えて計画し実行しなければ、図書館の意味とは何かを忘れずに努力しなければ、有名無実のものになることを知らしめてくれました。このことが後ろ盾となり、確たる信念を持って、現所在地元の図書館に勤めて、公共図書館のもっとも大きな使命である「全ての人に図書館サービスを」が絵に描いた餅にならないように、微力ではありますが、奮闘中です。

東京都在住司書 静岡市出身 村岡純子

県立中央図書館の現計画が見直されることとなり、大変落胆している者です。現県立中央図書館を訪ねると、老朽化がひどく、果たしてこれは2028年までもつのだろうか心配になっていました。いわゆる読書好きのためだけに図書館はあるものではありません。

学校図書館に勤務していた時は、県立中央図書館の「子ども読書研究室」に行き、選書の参考のために本を見たり、イベントや研修にも参加させていただきました。つい最近、郷土資料として義弟の本の寄贈をしました。我が家の本が自宅に埋もれることなく、県立中央図書館に保存され、かつ県民の皆さんに手にとっていただけること、どんなにありがたいことでしょう。

しかし、あの老朽化した建物を目の当たりにした時、寄贈した本どころかこの膨大な貴重な資料が、もしかしたら失われる可能性があると思ったら、居ても立っても居られない思いでした。

図書館はつながっています。県内全ての図書館の中心に県立中央図書館があるのです。静岡市まで足を運べない人たちにとっても、県立中央図書館は文化と心の拠点なのです。どうか一日も早く新県立中央図書館がスタートしますよう、心より願っています。

藤枝市 原田 栄子

市立図書館と県立図書館の違いでいえば、歩いていける市立図書館があるのもうれしいし、電車でウキウキ出かける1000人規模の静岡県図書館大会や、著名な方の講演会や研修会は県立図書館のおかげです。違う時間が味わえて世界が広がります。両方とも発展してほしいです。掛川市 読み聞かせボランティア

教育委員会の直営でお願いします。人を育てる文化・教育施設だからです。行政に移管した他県の図書館を見て、知の感じられない脈絡のない書棚の魅力のなさに失望しました。静岡市 教育関係ボランティア

図書館は単に本を借りる場所ではなく、幼いお子さんから高齢者まで、誰もが安心して訪れ、本を通して様々な時間を過ごすことができる公共の貴重な場です。

図書館には、4年後の弊社150周年の調査で大変お世話になっています。県立中央図書館は、弊社には保管されていない弊社発行書や関連書など貴重な資料を保存していただき、博物館と違い無料で閲覧や撮影をさせていただくことができ、大変ありがたいです。市立図書館にも、歴史関連書を閲覧・お借りするなど、お世話になっています。

静岡書店大賞は、書店員と図書館員が投票・参加する全国的にも珍しい文学賞です。児童書名作部門は図書館員さんのみの投票で決定します。図書館の参加が大変重要で、県内の各図書館を県立中央図書館がとりまとめていただき、感謝の念にたえません。協力委員として参加して下さっている県立中央図書館のお力なくしては、静岡書店大賞は成り立ちません。毎年12月の第一火曜日に「しぞ〜か本の日！」として、取次の垣根を越えた商談会、静岡書店大賞授賞式、合同懇親会を開催しています。

受賞作を書店では一等地で大きく展開、図書館でも同じPOPを付け、積極的にPR。「読書推進」を官民連携し行っていくことは、今後ますます必要となるでしょう。この活動には、県内各図書館を集約する県立中央図書館の存在が不可欠です。

図書館=本を借りるところですが、書店にとっては本を納入するお客様でもあります。図書館と書店は、いずれも自治体の文化的拠点と考えますし、共存共栄していけるよう、国や自治体のお力添えをいただければ幸いです。

吉見書店 外商本部 吉見佳奈子

「知の交差点」への想いを綴ります。古来より図書館は「知恵の泉」でした。私たちはその泉によって、飢えをしのぎ、渇きを癒して育てられたのです。すなわち、図書館は水道や電力と同じ社会に必須のインフラであり、生命を育てる空間です。

幼児が初めて「学び」にふれる児童図書、若者が「不撓の精神」に奮い立つ偉人の伝記、高齢者が「学びなおし」で若さを取り戻す専門書。その風景は、世代を超え、多様なニーズに応え公平な機会を提供する「知の交差点」とも言えるでしょう。また、県立図書館は地域の図書館、学校図書館、私設ライブラリーなど多くの学びの場を結ぶネットワークの核(コア)の役目も果たします。その貴重な役割に空白を生じてはなりません。それは知の空白につながるからです。

人々の想いを反映し、多様な学びが交差する新図書館は、デジタル化やAIの活用などでさらに大きな役割を果たすことでしょう。世代差も地域差も超え、近未来を展望する新しい「学びの場」の誕生です。その一日も早い開館を願ってやみません。

浜松市 上野征洋(静岡文化芸術大学名誉教授)

県立図書館は落ち着いた雰囲気、集中したいときや調べものをしたいときに助かっています。ただ、暗い印象があるので、新図書館は明るくどの年代でも使いやすい雰囲気になることを期待しています。また、車で行きにくいこと、駐車場からも遠いこと、急勾配であることなどから、立地面でハードルがあるので、東静岡駅前に移転しそれらが解消されることも期待しています。

静岡市 公共図書館 司書

拙い著作でしたが、『県立図書館長からはじまる図書館探究』の成果が、今、東静岡に実を結ぼうとしています。新県立図書館建設は20年来の悲願でもありました。この度、思いがけないサプライズもありましたが、みんなで力を合わせて今可能な限りの新県立図書館建設を実現しましょう。なかなか活動の輪に入れませんが、仲間に入れてください。

島田市『県立図書館からはじまる図書館探究』著者 鈴木善彦

吉田町にはとても使い易い図書館があります。我が家の嫁と孫たちは毎週行って沢山本を借りてきます。その本を私も読みます。あたらしい作家さんの名前とか作品を楽しみます。また図書館の中にステージのある会場があって、ちょっとした講演会や音楽会が身近です。地元の図書館で間に合っていますが、県立図書館もきっと大切な役目があるのでしょうね。より良い県立図書館の実現を私も願っています。

吉田町立図書館 利用者

最近、本屋さんも図書館も衰退していることに危機感を感じています。世界の不安定な状況を思うと、子どもたちの健やかな育ちには、良い読書環境が大切だと痛切に思います。新しい静岡県立図書館が子どもたちの幸せな未来を約束する、きちんと機能する図書館として一刻でも早く実現することを願っています。

「あざれあ」初代所長 林 のぶ

(上からの押し付けではない、利用者の自発的な)教育活動と文化の拠点基地であることが、図書館の大きな役割のひとつではないかと思います。知りたいことがあったら、まずは図書館で調べてみる、自分で探しきれなければ司書に助けを求めよう。知りたいことや興味のあることを深められると保証されている。

イベントなどで、知らない世界をのぞかせてもらえたり、自分で気づいていなかった潜在的な必要まで掘り起こしてもらえ。図書館とはそういう場所だと思っていますし、今のところ期待に応えてもらっています。

私は将来リタイアしても散歩と図書館さえあれば心豊かに過ごせると思い描いています。こんな贅沢かつ豊かな公的施設が保障されている現代が私は好きです。

子どもの頃「ガラス山の魔女たち」という本の中に出てきた「図書館」の存在を知って憧れました。けれど自力で行かれる図書館が近くなって、行ってみたかった図書館に初めて足を踏み入れたのは高校の時でした。学校の「図書室」では常連でしたが。

私の実家のある千葉では電車に乗らないと図書館に行かれない方が普通でした。静岡市は図書館が近いところも好きです。ちなみに、勤めている学校図書館は、不特定多数の利用者のための公立の図書館とはまた性格が違って、顔の見える子どもたちのためのものです。蔵書も少ないですが、いざとなったら市立図書館や県立図書館がたすけてくれると思っているので、安心しているところがあります。

国語で公立図書館について学ぶ单元があるので、将来有望な図書館利用者を育てるために、我ことのように公立図書館の素晴らしさを解説しています。いつもちょっと胸を張っています。

県立図書館は、市立図書館よりもっと規模が大きくてカバー範囲が広いイメージです。児童図書の全点収集が、とてもありがたい取り組みです。自主勉強会の会場としても利用させてもらっています。

県立図書館は使いこなせていると言い難くあまり語れないですが、資料を探していて、市立図書館で見つけれないと、県立図書館を検索するので、拠り所になっています。

静岡市 学校司書 藤原真希子

大学時代は、下宿のあった小鹿から(一応)勉強をするという名目で、友人とバイクを連れ、県立中央図書館まで、よく出向いたものでした。また、保護者として学校や施設で読み聞かせを実施していた頃は「こども図書研究室」の見学で得たことや受講した講演会の内容を仲間と共有し、日々の活動の参考にさせていただいていました。そして、図書館司書として働くようになってからは、県立の職員の皆様に公私にわたりお世話になり、研修や交流事業を通して多くのことを学ばせていただいています。

そんな自分の生活に欠かすことのできない県立中央図書館の新館建設が、今大きく揺らいでいます。個人的には、障害のある方を含め、すべての世代の方が安心安全に利用できる施設であればそれで十分だと思っています。そして、欲を言えば東静岡駅から雨に濡れることなく直行できれば、なおありがたいと思っています。斬新なデザインやオシャレな外観にお金が掛かるのであれば、それらは外し、シンプルでもいいので機能的な図書館を早いうちに作っていただければと思います。

西部地区 図書館職員

これ迄の長きに亘りご検討を重ねられた関係者各位に感謝申し上げます。

単に少子化ではなく人口減少の未来を予知する時、大型の箱ものは多大な重荷に為るやもしれず、一見華やかな外観は災害に弱く修復にも技術的に、又経済的にも将来に重荷に為るのではと懸念しています。

現在(いま)問われるのは図書館とは何かと云う問ではないかと思われます。図書館の基本的機能を重視して考えますと、反って今こそその機能、役割が必要かと思われます。忘れ去られては、失っては取り返しの出来ない資料の保存や未来を信頼して未来を拓くための資料収集、又デジタルでは人の心は育たない、デジタルは人の心を置き去りにしてしまう事実を知り、ひとの幸福感と成長に寄与する図書などの働きに注目して欲しいと思います。建物の華やかさを追わず、質実剛健・基本重視が私一県民の意見です。長く偉そうな文で御免なさい

藤枝市 相馬登美子

4月に活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟 合同総会が開かれました。会場は参議院議員会館 講堂。(しずとも)も会員になっている図書館友の会全国連絡会が運営への協力を求められたので、当日の運営スタッフとしてかかわりました。

参加者は国会議員を含めて240名、主な出席者は出版・書店関係者です。提言(読売新聞社・講談社の共同作成)の中に、以下のような図書館に触れる項目が見られました。「書店減少に加えて図書館の資料費も減少している。図書館と書店が連携して地域の文化拠点を守る必要がある。」

当日紹介された経産省「書店振興プロジェクトチーム」の資料では、出版流通・図書館・地域書店の三者連携が地域文化を支えるとともに、書店振興や地域経済への貢献となる旨が説明されていました。

その中で例として挙げられていたのが「幕別モデル」。図書館に必要な書籍の電子データ(マーク)を、有料の市販マークから無料のジャパンマークに変更し、地元の書店から購入、装備は地元福祉団体が請け負う、というものです。このモデルだと、購入・データ・装備の費用が中央に行かず地域経済に還元されるし、データ管理や装備も地元で行うので雇用も創出できる、ということがうたわれています。

図書館が個人利用者への情報提供により住民の生活や地域の文化を向上させるだけでなく、地域社会の経済・雇用へも貢献できるという、新しい可能性が模索されています。新しい県立図書館は、こうした視点からも運営を検討して欲しいと思います。

静岡図書館友の会 佐久間

県内在住の市立図書館勤務から学校図書館勤務3年目の司書です。

県立中央図書館の新県立図書館は、とても楽しみで注目しています。最近の報道で計画の見直しとのことですが、事業費の国交付金が約100億円不足とは、今さらに驚きです。私は県立中央図書館に何度も助けられました。その中でいくつかご紹介すると、学生の時の卒論、初めて県立図書館を利用しました。資料がたくさんあり、助かりました。

そして、学生の時に司書資格を取得して30年も経ってから、司書の仕事につきました。その時は、前任者との引き継ぎも充分ない中で、極小規模の市立図書館で、協力貸出、相互貸借といったシステムも知らず、資料依頼したままになっている案件をどう処理するのかかわからず、問い合わせたら、私のためだけに県立の職員さんが指導に来てくれました。図書館にインターネットがなく、17時過ぎに所轄課に行きパソコンを借りるという状況でした。極小図書館は、インターネット配線なし、図書館員一人対応など、今では考えられないですが、それでも、資料をたくさんお借りし、巡回相談では適切なアドバイスをいただき助けていただきました。だから、少しでも、図書館環境が良くなるようつとめることができました。今では、新図書館(図書交流館)、相互貸借も可能になり、とても充実した図書館運営ができています。その市立図書館に2年勤務させていただきましたが、現在は、希望して学校図書館司書になりました。極小市立図書館から、新図書交流館で得た経験を発揮することができています。県立図書館があってこそその地域図書館です。今までの感謝の思いと新県立図書館には期待している県民の一人です。

牧之原市 学校図書館司書 水野祥子

図書館は、心を育ててくれるところ。図書館に居ると癒やされる。自分の生活を豊かにし、未来につながり、生涯教育の為に施設であると思います。県立図書館へ漢詩の作者とか釈文について調べたいことがあり行きました。県立図書館の建物の古さに驚きました。図書館員さんは、とても親切で、いろいろ手配や調べてくださいました。その階には若い人が1人勉強していました。私は調べたい本がなく、館内は暗いし、寂しくなり、早々に帰りました。職員さんが「見つかったらお知らせします」とおっしゃってくださいました。帰りはタクシー。タクシーの運転手さんが「図書館がこんな山の方なんです。これより上には行こうと思わないね。」タクシー乗り場は裏口の山の途中です。シニア世代には、バス停から歩くのも大変で、交通便も良くないし、1人ではもう行かれないと思いました。雨の日のせいかな？ 晴れていたらまた違ったかも知れません。

静岡市 書家 鈴木美佐

私たち市立図書館の資料では解決できないレファレンスも、豊富な知識と資料を持つ県立中央図書館がフォローしてくださるから、今日も安心してカウンターに立つことができています。

今後も県内各市町の図書館の支えとして、県民が必要とする情報の鮮度と質の維持と、それを扱う司書のみなさんが快適に仕事ができる環境の創設を望んでいます。

東部地区 市立図書館司書

我が子が小学生の頃、市立図書館では、調べたい内容の本がなく、親子で県立図書館に行き、蔵書数の多さ幅広さに感激して帰ってきました。学校司書として勤めるようになって、子ども用の新刊図書の実物を見せてもらったり、良い本を紹介していただき、大変助かりました。全点購入ならではのサービスですね。そのためには、災害に強いしっかりした建物が欲しいと思います。県民の知の殿堂です。決して、なおざりに建ててはいけないと思います。

焼津市 学校図書館を考える・静岡 会員

静岡県立図書館の国の交付金が100億円減額される見通しになったことについて、大変心配しています。

現在の谷田の県立中央図書館は、自然環境は素晴らしいところですが、来る人を選ぶ(時間に余裕がある、車を運転できる、公共交通機関から歩いてあの坂を登って来られる屈強な体力の持ち主)利用者に優しくない図書館です。東静岡の新構想デザイン画を見た時は、美しい建物に心躍りました。現図書館の2倍強の延床面積と蔵書数で、公共図書館としては国内最大級とのこと。誰もがアクセスしやすく、開かれた知の殿堂！なんと誇らしい！と思っていた矢先の今回のニュースです。

図書館がいかに万人に優しく、知りたいことはどこまでも探求できる、素晴らしい機関であるかは、利用する人には周知の事実ですが、利用しない人には「巨額のお金をかけてもったいない」ということになるのでしょう。しかし図書館の役割はいまや読書、蔵書構築、研究にとどまらず、「認知面」「社会面」「身体面」で健康にいい(友の会資料より)ことは広く世の中に知られています。電子図書館の普及もまた多くの人のアクセスを可能にしています。東静岡に移転して多くの人が使えばその良さがわかると思います。

街のにぎわいの拠点としても大きな役割を担っています。(経験した3つの例)です。NHK「72時間」で石川県立図書館が取り上げられた回の、数々の人の居場所になっている美しい図書館の映像は印象的でした。

山梨県立図書館は駅から徒歩3分で、数々の電子機器の充実も驚きましたが、入ってすぐのカフェや、高齢のご婦人たちがポーカーを楽しんでいる部屋、屋外の葡萄棚がまるで北欧の図書館のような、街にとけ込んだ図書館でした。

市立図書館ですが武蔵野市立図書館武蔵野プレイスでは、YAコーナーの活況ぶりとアートな雰囲気、若者の居場所として定着していることがよくわかりました。あのくらいやらないと、ただそれ風の本を並べただけでは若者の居場所にはならないとわかりました。大人用の雑誌が読めて地ビールの飲めるカフェも賑わっていました。

お金がなくても、楽しく役に立つ、知りたいことにはどこまでも付き合ってくれる、街のシンボルとなりにぎわいを呼ぶ、こんな素晴らしい税金の使い道は他にはないと思います。中途半端なつまらない県立図書館になってしまうことを恐れます。なんとか現行計画を継続する道を知恵を出し合って探り、新しい文化の拠点ができることを願っています。

学校図書館を考える会・静岡 朝倉久美子

図書館の機能を実現する活動に欠かせないのが「人」であろう。図書館の職員問題では、雇用の安定や待遇について述べられることが多いが、その根底に流れているのはライブラリアンの仕事に対する無理解と圧倒的なリスペクト不足ではないか。欧米では、ライブラリアンは医師や弁護士と同様の尊敬のまなざしが向けられている。

医師や弁護士は、体調不良の治療や、困りごとの解決をするといった言わば人生のマイナスをゼロにする職業だが、ライブラリアンはゼロからプラスへ、人として豊かさの相乗効果をネゴシエイトする未来を創る職種である。ライブラリアンへの県民の意識改革は、県政・行政が率先して取り組むべきことであり、我々も一丸となって考えていきたい。

静岡市 自営 勝山 高

新県立図書館が皆さんの熱い心であと一步の位置に来ています。世界を見据えた創造的で居心地が良く魅力的な独自の文化を発信する日本一の拠点施設であることを願っています。

静岡市 元図書館長 堀江 剛

●普段の生活で県立図書館があってよかったと思えるのは、市立図書館に所蔵のない本や雑誌が、たいていは県立にあって比較的早く入手できることです。当然かもしれませんが、一般的な資料は市立、専門的な資料は県立という一定の棲み分けは、「あってよかった」「県立、頼りになるじゃん」と思いを実感できます。少し残念だったのは、県立レファレンスをお願いした時に回答していただいたのですが、「こういうことは市立に聞いてください」というコメントがあったことです。

家族も経験してみたいです。利用者はそのようなことを判断しづらいものです。

●「子ども読書研究室」は県立図書館ならではのことで、子どもの本のみならず子どもに関わる人たちの拠り所になる場所だと思います。全点収集は本当に頼りになるし、専門的な雑誌、様々な情報に目を開かされることもたびたびありました。選書会の会場に利用したことがあります。即座に手元に実物が揃えられるので充実した話し合いになります。

さらに、折々に発行される選定ブックリストは、児童専門の司書が選びウェブ公開がされているので非常に有意義です。

●県立図書館と学校図書館の連携に関しては、役立つ資料や使い方を広めていただけて有用かと思えます。県教委は探究学習を主眼においた高校教育を目指しているようです。ご承知のように図書館・学校図書館には、探究学習やそれを支える情報リテラシー教育を支援するための中心的役割があります。県総合教育センター生涯学習班学校図書館担当と一層連携して、県教委の施策をリードした「一歩先行く」サービスを願います。最も大切なのは、県立図書館と学校司書・司書教諭との顔の見えるつながりだと思います。しかし、現在の県立高校や特別支援学校の学校司書配置の状況は、令和5年度文科省調査によると、高校は全国ワースト2の5校5名で6%、特支は0で、学校図書館に連携の窓口が不十分です。残念です。

「学校図書館を考える会・静岡」 佐藤英子

一昨年、しらべたいことがあり市立図書館のレファレンスカウンターを利用しました。参考図書のうち1冊は「熱海市立図書館なら所蔵しています。」とのことで貸出しを申し込み、自宅近くの分室で受け取りました。

県立図書館(総務課)勤務し「図書館をもっと身近に 暮らしの中に」と県立図書館の機能充実や電算化、県内公立図書館ネットワーク構築を目指す『静岡県図書館振興策(案)』の策定にかかわった日々を思い、三十数年を経て今、現実にはそれを利用していることを実感しました。

新しい図書館がハード面だけではなく、蔵書や専門職員など県民の学びを支える機能の面でも、ますます充実することを願っています。

富士市 望月佳子

静岡県立図書館と、静岡県総合教育センターにある県立の図書室をよく利用しています。どちらも市立図書館にある資料より専門性の高いものが置いてありますので、研究・授業作成に必要な資料を見ることができ、とても助かっています。

新しい図書館でもぜひ、専門性の高い資料の充実をお願いします。

焼津市 大学非常勤職員

予算の厳しさが現実にはちょっと痛いですが、でも県立図書館は大丈夫だと信じています。余分なものは削られてもしっかりした積み重ねを無視しないでと応援します。

静岡市 一般市民

図書館の大原則として無料の原則というのがある。確かに教育の機会均等という立場からすれば、当然のことであろう。しかしながら、図書館サービスという言葉もある。本来、サービスとはサービスが受ける側が何らかの対価を支払うことによって成り立っている。

無論、本の貸借や資料の閲覧が有料ということではなく、より良いサービスの提供には相応の費用負担をお願いしても良いのではないか。例えば、図書館本体ではなく付帯設備として、携帯電話やWi-Fiも使用可能な有料のブースを設けるとか、飲食の場を提供するとかである。これからの図書館は「稼ぐ」ことを視野に入れても良いように思う。

静岡市 会社経営 勘定太郎

伊豆半島は、県立中央図書館から距離的に遠く離れています。熱海市、伊東市、河津町、東伊豆町、下田市、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、伊豆市、伊豆の国市を、思い浮かべてください。伊豆のどの市町からでも県立中央図書館に行き、資料を探す、またはイベント、講演会に参加するのは容易ではありません。

でも、県立中央図書館には、市町の図書館を支援する振興業務があります。南伊豆町へは、熱海からでも車で2時間はかかります。伊豆半島への長い道のりを、県立図書館は静岡市から車を運転して訪問するので、私は県立図書館が地元図書館を訪問してくださっている場面を知りませんが、どんなに熱海の職員が県立図書館の訪問を待っているのか、容易に想像できます。

以前、県立図書館の司書が市町の図書館に来て、ボランティア対象にブックトークの講座を開くという企画がありました。申し込みが通り県立図書館の司書と夢のような時間を過ごしたことを今でも思い出します。

伊豆半島は、県立中央図書館から距離的に遠く離れていますが、図書館大会や読書アドバイザーの研修、「静岡県の図書館」などを通して身近に感じています。新県立中央図書館建設が実現できるよう伊豆半島から応援しています。

熱海読み聞かせの会 諏訪村京子

私は十年前まで他県で介護の仕事に従事していました。高齢になった義両親の介護のために60歳を前に静岡に転居してきました。医療記者岩永直子さんの「図書館所蔵数が人口当たり一冊増えると地域高齢者の要介護リスクが4%減少し、町に図書館が一つ増えると要介護認定者数が48%減ることに相当する」の記事は興味深くとても納得できるものでした。転居した十年前知り合いも友人もないこの地で引きこもりになっていてもおかしくない状況だったと思います。

そんな時、徒歩圏内に図書館があることを知りました。通い始めると世界は変わり始めました。慶應義塾大学佐藤先生の7万人の調査の対象ではありませんが、自分も高齢者を意識する今、図書館に通うことで(徒歩でも自転車でも)筋力の低下を予防し、余りある知識を得る機会があり、活動ブルグに所属して他者と繋がることで脳を活性化し、活動を通して子どもたちのキラキラした目に会えると温かな気持ちになります。これは介護予防になっていませんか。これからも元気な高齢者であり続けられるよう図書館通いを続けたいと思っています。そして新しい県立図書館がより良い形で東静岡駅前に開館する日を待ち望んでいます。

静岡市 元介護福祉士 読み聞かせボランティア

『図書館～愛書家の楽園～』（アルベルト・マンゲル著 野中邦子訳 白水社）を読んだ。著者はブエノスアイレス生まれ。カナダに移住し20年を過ごし、フランスの古い司祭館を買い取り、図書館のような書齋に囲まれて生活していた頃の本である。

300ページのなかに、古今東西の本や図書館の歴史や魅力がびっちり詰まっている。作者の博識、読書量の多さにまず驚かされた。縦横無尽にのびやかに書いている。本や図書館についての引用もあちこちにある。

「本はどんな悩み事も消し去ってくれる愛すべき真の友」「宇宙～それを図書館と呼ぶ人びともいる」

「書物は人の一生で所有できる最良の財産であり、人に不滅の魂をもたらす」「発見から始まった物がたりは、探究で終わらなければならない」「本を愛する人は、誰でも知っているとおり、印刷されたページ自体に読書空間があり、かけがえのない物質的な背景がある」

本には「におい」があり、読書の楽しみは、耳でも手先でも鼻でもできる・・というくだりには妙に納得！ した。

さらに「電子メディアは情報を大量に供給できても、全世界の過去がしまいこまれた容器にはなりえない」という考えにも共感できた。

私は本も図書館も大好きだ。書架巡りをするだけで、世界の広さと自分の狭さに気づかせてもらえる。因みにこの本は3400円。図書館で借りた。いつも行く図書館になかった所以他館から取り寄せてもらった。知の宝庫である図書館は過去の歴史を蓄積して保存してくれる。

この本の著者は「最新のテキストが過去全てのものにとってかわる。なぜなら、新しい書物には、過去の著作のすべてが包含されているからである」と述べている。

図書館受益者は利用者だけではなく全ての人だと思う。立場を超えて応援しよう！ 今を生きる子どもだけでなく、未来の子どもたちのために！

静岡市 トモエ文庫主催 草谷桂子

乳幼児期は、人としての土台が育まれる大切な時期です。この時期に絵本と出会い、読み聞かせを通して信頼できる大人と温かな時間を重ねることは、子どもたちにとってかけがえのない経験になります。絵本の世界にふれることで、子どもたちは物語を楽しみながら感情を動かし、やがて文字や言葉への関心を深め、自ら読書の楽しさを発見していきます。こうした読書体験は、子どもの想像力や表現力を育てるだけでなく、自己肯定感や豊かな心を育み、人生を支える「生涯の財産」となっていきます。

しかし、すべての子どもが家庭においてこのような体験を得られるとは限りません。保護者の仕事の状況や経済的な理由など、家庭環境はさまざまであり、本との出会いの機会が乏しい子どもたちも少なくありません。そうした子どもたちにとって、図書館は本との出会いを支えてくれる「社会のセーフティネット」として、非常に重要な役割を果たしています。

図書館には豊富な蔵書が揃っており、子どもたちは自分の興味に合った本を自由に選ぶことができます。さらに、絵本に詳しい司書の方々による読み聞かせや本の紹介を通して、子どもたちは多様な価値観や世界にふれ、心を育てていきます。ある保護者の方は、「安心できる場所に、顔なじみの司書さんがいてくれることが心強い」と話してくださいました。図書館は、誰もが無料で利用でき、安心して過ごせる場所です。そして何より、人と人が優しく繋がっていける場でもあります。

なかでも、静岡県立中央図書館に設けられている「子ども図書研究室」の存在は、静岡の子どもたちの読書環境を支えるうえで欠かすことのできないものです。多くの子ども向け図書が収集・保存されており、保育・教育現場で日々子どもたちと向き合う保育者や、保育者を志す学生にとって、絵本の選書や専門的な知識に出会える、非常に頼りになる存在です。私自身、絵本専門士として活動する中で、この研究室の資料や取り組みに幾度となく助けられてきました。

現在、計画が進められている新しい県立図書館の建設が、財政的な理由から実現が危ぶまれているという状況に、子どもの育ちや読書支援に関わる者として深い懸念を抱いています。新しい図書館の整備は、単に建物を新しくするというのではなく、子どもたちが本を通じて「知ること」「感じること」「繋がること」を育てていくための、未来への大切な投資だと感じています。

静岡のすべての子どもたちが、本に親しみ、心の支えとなる一冊に出会えるように。そして、その出会いがやがて生きる力となり、人生を豊かにしていけるように。安心して訪れることのできる新しい県立図書館の実現を、心から願ってやみません。

絵本専門士・絵本保育コンシェルジュ 大村 茉莉恵

【提案1】県内外の集客を見込んだ「知と緑の拠点」としての開発

- ① 東静岡駅南口は、富士山世界遺産を有する静岡県としてはまたとない、「自然と文化」とが融合するにふさわしい立地であり、有効的に活用することで、県内の観光および商業の活性化が多いに見込めるものと思われます。
- ② 参考事例として、昨今の都市部における開発の傾向として、緑化との連携があります。昨年より順次開業しているJR大阪駅前の再開発事業「グラングリーン大阪」<https://umekita.com/>では、“「みどり」と「イノベーション」の融合”をコンセプトとし地区面積の内三分の一が緑地となっています。また、東京駅の徒歩圏内に位置する「大手町の森」<https://the-otemachi-tower.com/otemachi-forest>では、「森(しん)・呼吸できるまちづくり」を運営コンセプトに掲げ、オフィス街の中に鳥や昆虫を宿す本物の森を再現し、高い評価を得ています。規模の大小はありますが、JRの主要駅に隣接する場所に、大胆な緑地をデザインした未来型施設が注目を集めています。
- ③「グラングリーン大阪」では商業スペースや公園に加え、文化発信のスペースとなる「VS.」という施設があり、また「大手町の森」では原始の森の中にレストランが併設されていますが、東静岡においては「新静岡県立図書館」をコア施設とし、駅周辺を「知と緑の拠点」として開発デザインという提案となります。
- ④立地が計画されている東静岡駅南側の敷地は、すでにある日本平周辺の公共施設との連携を含めた「知の拠点」としての機能と、国の名勝地の麓として、都市と緑の共存を実現する「緑の拠点」にもなりうる地であり、さらに富士山を眺望できる最高の「ロケーション」として、三拍子そろった絶好の立地であり、県内外から集客が可能な「知と緑の拠点」としての要素が揃っています。単に図書館機能について議論するだけでは大変もったいなく、静岡県内に残された都市部における開発可能地区として、新県立図書館をコアとした、東静岡駅周辺から日本平全体の、慎重かつ長期的な開発の計画を提案します。

【提案2】知的連携促進としての図書館機能の拡大

- ① 新県立図書館の存在意義を、貸出、閲覧、研究等の学術的な側面だけでなく、情報発信、情報交換、マッチングサービス等の、県民のより具体的な活動を促進する知的連携サービスの展開を

希望します。

② 県内企業の先進的取り組みや、県内産業の海外への進出などを、モノと人にフォーカスして紹介する場を設け、県民と企業のマッチングなどを促進することで、さらなる発想や人材を県内から発掘することが可能となります。

③ 経済発展はひとり一人の発想力と、つながる力により支えられるものと信じます。日本国の経済発展を振り返る時、そこに見えるものは、江戸期や明治大正昭和期における、一般市民の文化力と美意識の賜物であることに気付きます。「知」と「美」をおろそかにした戦後の教育と社会のあり様と、昨今の閉塞感極まる社会情勢は決して無縁ではありません。

【提案3】首都圏からの移住者拡大を狙う、魅力ある未来型開発

① 先述の「グラングリーン大阪」「大手町の森」の取り組みからもわかるように、国内の主要都市では、都市の在り方に対し、すでにあらたな時代への模索が始まっています。

② 東静岡駅周辺は、首都圏への通勤・通学圏内として、東京神奈川からの移住者拡大を狙える、県内重要地域でもあります。県内で最も人口が増加している市は「三島市」ですが、その理由はふたつあると考えられ、ひとつは首都圏への通勤通学への利便性と、もうひとつは、三島駅周辺の歴史文化の香りや駅周辺に見られる自然環境の美しさです。三島市は、三島市出身者のUターンが大変多いことでも知られ、「帰りたい街」「住んでみたい街」「子育てしたい街」として若者に選択される傾向にあります。

③ 「知と緑」の連携による駅周辺の開発は、通過県と言われてきた静岡県に、あらたな魅力を持たせることが可能です。新県立図書館の建設計画は、静岡県の経済発展とイメージの刷新において、またとないチャンスとなりましょう。積極的な計画を、ぜひお願いいたします。

静岡市 日本画家 森谷明子

私が書店として意見を述べるのはおこがましいと考えていますがまず多くの本屋の願いは「本を買ってください」ということです。そうしないと本は刊行され続けません。しかも定価で、えっ？本って定価じゃないの？と思われるかもしれませんがざっくり言うと図書館には装備というひと手間が必要ですからその分費用を考慮しなくてはなりません。

先日には書店活性化プランが省庁から発表されました。それらは本屋にとって諸問題のひとつである値引き納入を是正できる最後のチャンスと捉えられています。時々話題本は本屋にはたくさん店に積んであるのに図書館ではその本を借りるための予約が何十人となっていることがあります。そんな時は買っていただければ「店にあるのに」と悔しい思いをしています。

しかしながら図書館が初版数の何割か購入してくれるからこそ版元は次の刊行ができると言われていきます。図書館が本屋ではできない読書の魅力を創出してくれているのは事実です。さてここに一冊の著書があります。「県立図書館長からはじまる図書館研究」日本図書館協会刊 2025、2月この本にも登場するトモエ文庫主宰で作家でもある草谷様からご紹介いただき今回拝読しました。

著者である鈴木善彦様は県立図書館の館長に就任してから司書資格を取得し任期中県内全部の図書館を訪問されました。そこで体験された意義から職員も研修に派遣して血の通った交流に尽力されました。私はこの本の図書館の「未来の図書館」の章に感銘を受けましたがまさに図書館が本と人を通じ呼吸して成長する生き物であることがわかります。最近「価値」とは？と考える事があります。そして価値は時代によって変化すると気づきました。

皇室の彬子女王の新聞記事を読み目的とする「日本の未来を担う子どもたちが、少しでも多くのよき日本文化の記憶を持ち、それを未来に伝えて行くための場を再生すること」を掲げられた心游舎に興味をもちました。私は日本の伝統文化を何も知らない事を思い知らされています。知りたくなくて本を読んでも頭に入らず漢和辞典やユーチューブそしてゆかりのプチ旅行で今更それらの文化に触れ頭に叩き込んでいます。

その時すべてのものが繋がっている事を知りました。世の中が王朝貴族から武士へそして町民文化へと時代が移り祭りごとや宗教に影響を受けて戦や災害を経ながら流行から価値を生んでいきました。これらすべてのものがリンクしていて現代までそのおかげがあること、今のこの図書館問題の課題にあてはめるならば大学の研究者や職人そして図書館や博物館などが身近にあることでそれぞれの英知により実際の価値を今でも生で体験できることにも通じています。つまり今回の新図書館建設問題において百億の予算不足が指摘されている状況化を鑑みると交通の不便や老朽化による耐震性不安はあるものの価値を体験できる施設がひとつかたまりになっている環境を再評価してもいいのではと思います。そしてその近隣施設との連携に一部費用を当てられないかと思えます

※連携構想に具体的な議論が必要だと考えています。将来を担う県民次世代層はデジタル環境内で得たい知識を取捨選択して時代に適応していくはずですが想像力や読解力ではAIにより依存する事が考えられます。その時に拠り所や居場所となる新図書館が必要だと考えます。新図書館建設の協議会の先生方が長い間時間と調査研究を経ていよいよという時この原資不足という問題に直面しているわけですが新図書館建設によって解決したい課題を将来の利用者が望む新価値と建設実現可能性に向け再考していただきたいと思えます。

藤枝市 書店 絵本専門士 江崎直利

建物はシンプルなデザインにして、本の維持にコストをかけていただきたいと思えます。また、駅前の立地に関しては、県立図書館利用の多い学生にとっても、利用しやすいかと思えます。私も学生時代は県立図書館にお世話になりました。ただ、東静岡駅はバス路線も少ないので、同時に整備されるか、現在と同じように無料の駐車場があると利用へのハードルが下がります。

周りのママさんたちの意見も聞きましたが、育児を始めてからは、やはり市立図書館の利用が多いです。利用者の住み分けとしてはそれでいいのかもしれませんが、せっかくアクセスのよい場所に県立図書館ができるのであれば、これを機に県立図書館も利用しようという育児世代の方もいると思えます。現在の県立中央図書館の絵本コーナーは2階にありますが、ベビーカーを利用していたり、歩き出したばかりの子を連れて2階へ上がるのは思った以上に大変です。計画では3階の駅入口より児童書コーナーに入れるようですが、子育て世代はやはり自動車利用が多いと思えますので、1階に設置していただくと利用しやすいです。

静岡市 小学校読み聞かせボランティア

県立図書館のどんぐり広場でおはなしかいに参加していたことがあります。赤ちゃんがママの膝の上で絵本の読み聞かせを聞いてニコニコしたりママと見つめ合ったり微笑ましい姿は私たち読み手にとっても楽しい時間でした。毎回本を借りることが楽しみなんですと教えてくれた親子さんの声に嬉しく思っていました。どの方にも親しまれる図書館になることを願っています。

三島市 読み聞かせボランティア 山内知恵子

大学院での研究のために大学図書館と県立図書館を利用しています。県立図書館は専門書が充実していて大変助かりますが、私の研究テーマである市民活動に関する古い資料は、残念ながら十分に揃っていません。静岡県立図書館は、県立図書館としては蔵書数が多い方ではありませんので、今後さらに蔵書を充実させていただきたいと考えています。

国会図書館のデジタル化は進んでいますが、まだ紙媒体でしか存在しない情報も多くあります。県立図書館には、こうした資料も積極的に収集していただきたいと思います。大学卒業後も研究を続ける者にとって、大学図書館は利用しづらくなります。県立図書館には、ぜひ蔵書を充実させ、研究活動を支える機能も充実させていただきたいと願っています。

静岡市在住 大学院生

市町立図書館がより豊かに、持続的に機能していくためには、それらを専門的・広域的な視点で支える中核機関としての県立図書館の存在が不可欠です。資料の収集・貸出支援だけでなく、図書館職員の研修やネットワーク整備、レファレンスサービスの後方支援、地域資料の保存・公開など、県立図書館が果たすべき役割は多岐にわたります。困難もあるかと思いますが、静岡県全体の図書館ネットワークの核として、県立図書館の建設が無事に実現することを、心から応援しております。

市町の図書館が安定した運営を行い、地域住民にサービスを提供するためにも、計画を前に進めていただけるようお願いいたします。

静岡県内公共図書館司書

県立図書館のことは、ニュースを見てとても気がかりでした。良い図書館が実現することを祈っております。

- ・地方の図書館にとって県立図書館の蔵書や職員さんのご指導ご意見などの協力なくしては成り立ちません。県立図書館の充実こそ県全体の基本だと思います。
- ・牧之原市の図書館は新しくなったことで来館者増加来館者層の変化があり市民の利用の仕方も変わってきました。図書館本来の機能と職員の努力、市民が求める空間が揃ったことが大きいと思っています。
- ・読み聞かせのボランティアをするにあたって図書館(職員さんのアドバイスなども含めて)は大きな存在です。
- ・友人は昨年ご主人を亡くされたと悲しみと折り合いをつけたくて図書館に通って支えとなるような言葉をさがしていました。
- ・姪の子供は小さい時どんな夢を見ようかなと言いながら就寝前に読んでもらう本を選んでいたということですから心身共に成長の助けになったと思います。
- ・保健室登校していたある中学生に図書館で会う事があり、聞くと、図書館が好きとのこと居場所の一つとなっているらしい。
- ・B型障害者収容施設に通うYさんは土曜日には必ず図書館に通っています。あまり字を読めませんが、本が大好きです。「図書館のお姉ちゃんとお友達になったよ」と話してくれました。
- ・ある高校生は、部活が終わったあと図書館で勉強してから帰宅。家に帰れば疲れてぐったりしてしまう

から、その前に図書館によって勉強しているとのことで、そんな使いかたもあるんだと感心しました。

・年配の女性は孫を連れて行くのに図書館はちょうどいい。とっていました。

・窓際の席で高校生のカップルが勉強していた。図書館デートいいですね。

・「行けばなにかがありそうな図書館」「特に用はないけど行ってみたいくなる図書館」がいいと話してくれた高校生がいました。

牧之原市 読み聞かせボランティア 水嶋みゆき

近年の建設費の高騰や、国交省の補助金の交付率の削減など、新県立図書館建設費の県費負担が増額する理由については県及び県教委の責任というよりも外部要因によるものと思われます。担当課のご苦労が偲ばれるところです。

県立図書館の建て替えは50年から70年に一度の事業であり、その成否が静岡県における図書館、教育、文化の振興と発展に多大な影響を与えることは間違いないことと思います。後世に禍根を残さないよう、2020年代の現在必要と考えられる機能と収蔵能力を備えた施設となるよう強く要望いたします。

近年の成功例として取り上げられることの多い石川県立図書館は、様々な新しい図書館の機能が盛り込まれた施設として、多くの県民に利用されています。しかし、新しい機能だけではなく、十分な収蔵能力(書庫面積)と、県立図書館としての基本的な図書館機能を十全に果たしていることも事実であり、新しい静岡県立図書館もその両者が求められています。

これまでの計画で示された面積は、新しい県立図書館として必要な機能を果たすために積み上げられたものであり、単純に建設費を縮減するために床面積等を減少させることは、今後50年、100年と続く県立図書館の機能とはたらきに悪影響をもたらすことを危惧するものです。

県産材の活用を削減したり、意匠面でのコスト増要因を削るなど、機能面でのマイナスの影響が最小限となるよう打開策を見つけていただきたい。英知を集めて、県民の多くが待ち望んでいる新しい県立図書館が、中途半端なものとならないよう要望いたします。

市立図書館職員

静岡県立中央図書館は、江戸幕府が所蔵していた約3500冊の蔵書を葵文庫として所蔵しています。これは静岡県民の貴重な財産にとどまらず、我が国の誇る歴史的な文化遺産でもあります。この江戸幕府旧蔵書の多くは英書・仏書・蘭書で、静岡学問所で使用されました。しかしこれらの洋書は酸性紙で200年くらい前の書籍なので、劣化が進んでいきます。この貴重な文化遺産を後世に引き継ぐためにも、より一層の保管設備

の充実に向けて一刻も早い新図書館の建設が望まれます。 藤枝市 元県立図書館員 海老原一彦

たまに図書館に顔を出す文化人でなく、専門職の館長さんを希望します。

浜松市出身 教員

私は現在、愛知県豊田市に住んでいます。磐田市の出身です。若い頃は、磐田に故郷としての思い入れがありませんでしたが、今は帰省の際に立ち寄る磐田市中央図書館や「にこっと」を素敵な図書館として、身近な人に自慢しています。私にとっての理想の図書館は1階にあり、地面に地続きで、外の景色が見える図書館司書の手が入っていることが伝わる、プロ意識を感じる図書館 自分の知らない世界へと、懐深く導いてくれる図書館です。磐田の人には、もしかしたらピンとこないかもしれませんが、私は磐田の図書館に、理想の図書館像を感じるがあります。豊田市には、豊田市駅前に立派な中央図書館があります。その蔵書数は地方の図書館の中では誇れるものがありますが、巨大すぎて本の倉庫にいるようで、私は居心地の悪さを感じています。本を借りたらすぐに帰りたくなります。それと比較するからこそ、磐田市の図書館の良さに気づくのだと思います。

私が所属する「豊田市の図書館を考える会」は、2016年に発足した会です。「豊田市中央図書館に指定管理者制度を導入する」という市長の突然の発言を受け、急遽、会を立ち上げました。発足当時を振り返ると、私たちはあまりにも無知でした。行政に対し、「指定管理者制度の導入をストップさせ、まずは十分な説明を求める」ことを要望しながら、講師を招いての勉強会や他市の図書館の視察などを通して、図書館の役割と重要性を遅ればせながら学んできました。その一方で、活動を通し、行政に意見を伝えることの難しさや、同じ思いの仲間を増やす難しさも痛感してきました。その悩みは今も続いています。図書館を利用しなくても生活できますし、かつての私がそうであったように、あるのが当たり前前の公共施設として、「図書館とは何か」と、あらためて考えない人の方が多いと思います。それゆえ、今回の交付金が100億円減ることに、「それは財政事情からして、仕方がないね」と、問題視しない県民の方が多いかもしれません。

私は前川恒雄氏の著書を読んで、前川氏が滋賀県で県立図書館のためにどう尽力されたかを知りました。県立図書館は市町村立図書館よりもさらに遠い存在です。その役割について、関心のない人に伝えるのはかなりハードルが高いと思います。その中で、石川県立図書館は注目に値すると思っています。私はまだ訪れていませんが、観光客が訪れる観光スポットとなっています。

観光は、県立図書館としての本質的な役割とは別かもしれませんが、行きたくなる図書館を作ることは、今の時代、図書館に関心をもつ県民、市民を増やすことにつながります。金沢県立図書館の人気は、何よりも大きな成果だと思います。静岡県立図書館の計画が具体的になった時、私は「次は静岡県立図書館が話題になる番だ！」とワクワクしていました。金沢まではなかなか足を運ばませんが、静岡なら気楽に行けます。「観光のついでに、静岡県立図書館にも寄ってみるか」という近隣県民も出て来ると思っていました。今回の交付金減額のニュースを聞き、これほどの多額の金額が、一方的に減らされるものなの？ そんなに減らせるものなら、そもそもどんな行政計画も立てられないのでは？ 計画を練り上げてきた時間や経費やエネルギーを無駄にするの？ と頭の中が？で一杯になりました。図書館は知の拠点であり、民主主義の砦だと、私は市民活動を通し、実感しています。静岡市には、多くの団体が、それぞれの立ち場から、着実に図書館活動を積み上げてきた歴史があります。それは、静岡ならではの素晴らしい実績であり、静岡県出身者として、静岡県民に声を大にして伝えたいことです。どんな活動も気づいた人が声を上げることからしかはじまりません。静岡の皆さんが粘り強い話し合いを通して、この難局を、少しでも良い方向に運んでいかれることを、豊田から応援しています

豊田市の図書館を考える市民の会 竹内純子(磐田市出身)

県立図書館は私の住んでいるところから1時間ほどかかるので、ほとんど利用したことはありませんが、市立図書館にはない資料を取り寄せることが出来るので、なくてはならない存在です。高校に隣接した市立図書館で、高校生がもっと調べ物をし、資料を取り寄せ、学びを深めることが出来るように、7月に図書館の利用方法の講座を2年生全員に開催予定です。地方でも、県立図書館があることで、学びが深めることが出来ることをもっと多くの人に知ってもらえるように、活動していきたいと思っています。

牧之原市 図書館協議会委員 武田てるみ

静岡県立図書館は、市立図書館と違い、新書の並べ方が出版社ごとになっているので利用しやすく、新刊が常に右端に並んでいることも探しやすいです。これはスペースがあるからできるのだと思います。新たにまちなかに作るのも良いですが、多少不便でも駐車スペースがあって広いスペースがある方がワクワクします。

県立図書館には貴重な所蔵品などアーカイブとしての役割も持たせ、身近な図書館の役割は市町立図書館が担えばいいと思います。また、今でもあるサービスと思いますが、県立図書館にしかない蔵書を市町の図書館に取り寄せでき、返却も同様にできるといいですね。

静岡市 70代 男性